

「現代社会」学習指導案
『生命の尊重』を主題として

広島県立瀬戸田高等学校 宮地秀実

1 日時

平成16年11月10日(水) 5限 13:30 ~ 14:20

2 指導学級

3年1組(男子15名,女子16名 計31名)

3 教材名

『生命の尊重』(「現代社会 新訂版」実教出版)

4 単元・教材について

(1) 教材観

この生徒たちとは、3年間にわたって、生命や人権、平等、民主主義、戦争と平和といった問題にこだわりながら授業を進めてきた。今回取り扱う『生命の尊重』という単元は、そうした学習の総まとめのような内容になっており、これまで取り上げてきた事柄も思い起こすことができるような授業を作っていきたい。それはまた、「民主的、平和的な国家・社会の有為な形成者」を育成することを目指す公民科の究極目標を実現させるためにも必要なことだと考えている。

(2) 生徒観

この3年生は、本校に赴任して3年目となる私が、本校において3年間をともに過ごしてきた初めての生徒たちである。1年次は日本史で週2時間、2年次と3年次は現代社会の授業で週2時間ずつ生徒全員と関わってきた。昨年度はこの学年の副担任であったし、今年度は「地域総合研究」という選択科目でさらに週4時間の授業を受け持っている生徒がこのクラスの中に10名いるなど、いわば最も「気心の知れた」生徒たちである。

生活態度に締まりのない部分があるにはあるが、学年としてのチームワークは良く、行事の盛り上げなど、「やる時にはやる」集団でもある。ざっくばらんで人なつっこい学年の雰囲気は授業にも反映されていて、反応の良さはもちろん、生徒が声を出すときの遠慮のなさも、授業者としてはむしろありがたいと感じている。

教科学力や知識量には大きな幅があるが、社会的事象に対する関心はそれぞれが持っており、とりわけ生命をめぐる話や戦争と平和の問題では、予想以上の反応を見せることがある。今回の授業では、それをできるだけ引き出せるような展開を心がけていきたい。

(3) 指導観

これまで民主政治の原理や国際社会の問題、経済の仕組みなどを学習してきたのは、つきつめれば、すべて「生命」が尊重される人間社会を築いていく方策を考えるためであったと考えている。「生命」が軽視される究極の場面としての「戦争」を今回は中心テーマとして取り上げていくことになるが、昨年の授業で『映像の世紀 第5編 - 世界は地獄を見た』のビデオ鑑賞をしたとき、第二次世界大戦の映像を食い入るように見つめていた生徒たちの様子に手応えを感じたことがある。

とくに今回は、人の命をないがしろにすることほど道徳に反するものはなく、人の命を大切にすることこそが必須の道徳心であるという立場で授業を作っていきたい。

5 本時の展開

(1) 本時の目標

ア 現在発生している戦争やテロ、犯罪などの問題に関心を払い、人間としての憤りを持つことができる。

イ 戦争は「生命がおびやかされる最大規模の人為的行為」であることを理解する。

ウ 郷土の先輩・平山郁夫画伯の制作意欲の源泉が「平和への祈り」であることを知る。

(2) 本時の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
提示された教材や話題に対して関心を持ち、考えを深めようとしている。また、授業の流れに意識を集中させることができる。	学習した内容やさまざまな意見を踏まえながら、自分の考え方を論理的に文章化できる。	「心の書きとめシート」に自分の率直な思いを書きとめている。	学習した内容に関わる質問に対し、的確に答えることができる。

(3) 本時の学習の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準	評価方法
導入	3分 本時の目的を説明し、これまでの学習を振り返る。	政治も経済も国際関係も、すべて人の命に関わっていることをおさえる。		
展開	7分 ここ数か月の新聞記事の中から、戦争、テロ、犯罪などに関わるものをいくつか提示する。	「生命の尊重」とはほど遠い人間社会の実態があることを感じ取らせる。	提示された教材や話題に対して関心を持っている。	行動観察
	3分 生き物が死んでも「また生き返る」と答えた子供たちが多かったことについて話を出す。	生徒の考えや受け止め方を聞いてみる。	授業の流れに意識を集中させることができる。	行動観察
	5分 死刑の執行に関わる新聞記事を提示し、2年次の「ライフプラン」で「死刑制度の是非」をめぐるディベートしたことを思い出させる。	一度死刑にすればその死刑囚は生き返らないし、犯人を死刑にしても被害者が生き返るわけではない。それゆえ、この制度をめぐる悩みや迷いが生じていることに気づかせる。(死刑反対論のみに偏らないように留意する。)	学習した内容に関わる質問に対し、的確に答えることができる。	定期考査
	15分 ドラマ『さとうきび畑の唄』の中で主人公が最後に発した言葉 - 「私はこんなことをするために生まれてきたんじゃない - その叫びの中に込められた思いを考える。	自分が父親から聞かされてきた戦場体験の話や母親などから聞かされてきた戦争体験の話もまじえる。 ・自らの命と他人の命のどちらをとるかという極限の選択を迫られた時、自分ならどうする？	学習した内容やさまざまな意見を踏まえながら、自分の考え方を論理的に文章化できる。	「心の書きとめシート」の分析
10分	平山郁夫画伯の作品を提示し、画伯の文章を読み合わせる。	被爆体験にもとづく画伯の平和への祈りを感じ取らせる。	教材や話題に対して考えを深めようとしている。	行動観察
まとめ	5分 10月22日付け「朝日新聞」の投書記事『必死に祈った「命を助けて」』を読む。	命をいつくしむ人間本来の感情を読みとらせる。	「心の書きとめシート」に自分の率直な思いを書きとめている。	「心の書きとめシート」の分析
	2分 「心の書きとめシート」を配布する。	率直な思いを記入するようにながす。		

それぞれの場面で、できる限り生徒の発言を引き出し、それを生かすように努める。